

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書（収益性向上対策）

都道府県名 京都府

変更：令和5年11月10日

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

（2）販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状												目標												実績				スマート農業推進枠 導入・定着の取組の 実施内容	地域（県又は国を含む） の価格（販売単価）		補正係数	価格補正 後の実績	事後評価の検証方法 （※定量的な検証が できること。）	達成率 （%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考		
						年度	面積		生産量又は 出荷量		価格（販売単価）		生産コスト		年度	面積		生産量又は 出荷量		価格（販売単価）		生産コスト		年度	面積		生産量又は 出荷量		価格（販売単価）		生産コスト		事業実施 前年度		目標年度										
							単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位				単位								単位	単位
京都府 農業再 生協議 会	4	京都市	レタス	低コスト耐候性ハ ウスの導入	販売額の 10%以上の 増加	元	11,298千円 /10a	0.06	ha	5,963	kg	1,137	円 / kg	—	4	14,700千円 /10a	0.58	ha	70,330	kg	1,209	円 / kg	—	4	4,843千円 /10a	0.58	ha	26,100	kg	1,071	円 / kg	—	—	429	円 / 10 a	247	円 / 10 a	1.74	8,412 円/10a	出荷伝票や販売実 績に基づき10a当 たりの販売額を算 出	-85	冷却チャラーの不調によ り、生産量が大きく落ち 込んだため目標未達と なったものの、導入施設 の稼働状況は良好であ り、前年同様の反収が得 られていたとすれば十分 目標を達成できていたこ とから、次年度には達成 できる見込み。	トラブルなく通常の栽培 管理を実施することによ り、目標達成できる見込 み。		

都道府県 平均達成 率	0%	総合 所見	機器不調による生産量低下で目標未達成となった。今後、トラブルなく通常の栽培管理を実施することにより、目標達成できる見込みである。
-------------------	----	----------	--

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書（生産基盤強化対策）

都道府県名 京都府

変更：令和5年8月31日

II 産地パワーアップ計画（生産基盤強化タイプ）

1 成果目標

(5) 生産技術の継承・普及に向けた取組

ア 産地の成果目標

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	産地の成果目標（総販売額又は総作付面積の維持又は増加目標）										事後評価の検証方法 （※定量的な検証ができること。）	達成率 （%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考	
				現状			目標			実績									
				年度	面積 単位	総販売額 単位	年度	面積 単位	総販売額 単位	年度	面積 単位	総販売額 単位	年度						面積 単位
京都府農業再生協議会	1	京都府	小豆+黒大豆枝豆	R1	461ha (小豆402ha、 黒大豆枝豆59ha)	ha	R4	461ha	461	ha	R4	490ha (小豆420ha、 黒大豆枝豆70ha)	490	ha	①現状値（令和元年度） 令和元年度における作付面積（小豆…作物統計調査、黒大豆枝豆…JA全農京都実績） ②目標値（令和4年度） 現状値の維持 ③実績値（令和4年度） 令和4年度における作付面積（小豆…作物統計調査、黒大豆枝豆…JA全農京都実績） ④検証方法 ③/②×100	106%	小豆及び黒大豆枝豆の面積が拡大し、計画とおり目標を達成した。	目標は達成されている。	

イ 取組内訳

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組目標1										事後評価の検証方法 （※定量的な検証ができること。）	平均達成率 （%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	取組目標2										事後評価の検証方法 （※定量的な検証ができること。）	平均達成率 （%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価			
				現状			目標			実績								現状			目標			実績										
				年度	数値 単位	年度	数値 単位	年度	数値 単位	年度	数値 単位	年度	数値 単位					年度	数値 単位	年度	数値 単位	年度	数値 単位	年度	数値 単位	年度	数値 単位							
京都府農業再生協議会	1	京都府（全域）	小豆+黒大豆枝豆	労働生産性の向上	R1	1,312	円/h	R4	1,316	円/h	R4	1,367	円/h	①販売額（現状、目標、実績共通） 該年度における10a当たり収量×該年度における販売単価 ②労働時間（現状） 経営指標の10a当たり労働時間を元に算定 ③労働時間（目標） ②労働時間（現状）のうち、トラクタ作業機の着脱時間及び作業機の運搬時間を0として算定 ④労働時間（実績） 講習会受講者にアンケートを行い、圃場間の作業機運搬時間とトラクタで作業する圃場の数を聞き取り、③労働時間（目標）と同様の考え方で算定 ⑤検証方法 ①/④ / ①/③ × 100（%）	104%	事業実施により、トラクターに作業機をつけた状態で公道走行することが可能となり、作業機の運搬及び着脱に係る労働時間が削減できた。 また、小豆が順調に生育し、単収が高かったため、計画とおり目標を達成した。	目標は達成されている。																	

(注) 取組目標を2つ以上選択している協議会がある場合は、取組目標欄を追加すること。

ウ 総合所見

都道府県平均達成率（面積）	100%	都道府県平均達成率（総販売額）	-	総合所見	目標達成されており、事業効果が認められる。
---------------	------	-----------------	---	------	-----------------------